

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 白銀中 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学, 英語)の結果

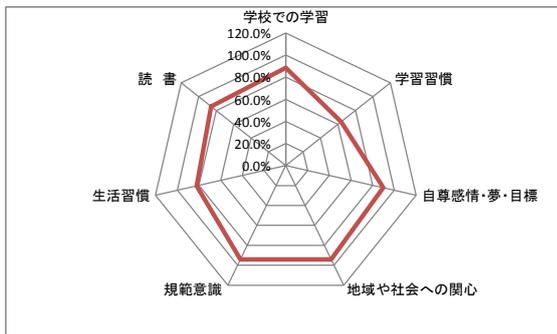
本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「読む」という基本的な力が弱い。漢字が正しく読めなかったり、落ち着いて文章が読めなかったり、設問を最初から最後まで読んでいなかったりする。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	投稿先の名前と住所を書く問題	
	努力が必要な問題	文章を書く問題については無解答が多くなっているため、記述問題が努力を要する。	
数学	全体的な傾向や特徴など	無解答が多い。全体的に正答率が低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	中央値に関する問題	
	努力が必要な問題	基礎・基本の定着が必要。	
英語	全体的な傾向や特徴など	聞きとることができても、それを要約したり、言い換えたりすることが苦手である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	聞きとったことを、絵で表しているものから、選択できる問題。	
	努力が必要な問題	自分で考え、表現する問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>・学習習慣について「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」について肯定的な回答が全国の結果よりも下回っている。また、「授業以外にどれくらいの時間勉強をするか(60分以上行う割合)」については全国の結果より大きく下回っている。読書の習慣について下回っている。</p> <p>・心の育ちについては「学校の規則を守っていますか」「自分にはよいところがありますか」「人の役に立つ人間になりたいですか」などの質問に肯定的な回答をした生徒の割合が高いものの、全国の割合を下回っている。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

朝自習で、国語・数学・英語の基礎的な問題、読書・音読暗唱を計画的に行っている。また、「聴写テスト」を行って、聞く力・集中する力等を高める取り組みを行っている

② 家庭生活習慣等に関する取組

今年度より、「自学ノート」を作成し、毎日、その日の家庭学習を記入し、翌日に担任へ提出させることで、家庭学習の習慣化を図る。また、ノートには読書についての記入欄もあり、「本の題名・読んだページ数」を目記することで読書習慣の定着を図っている。